

平成 XX 年度修士論文

タイトル



お茶の水女子大学 大学院 人間文化創成科学研究科 理学専攻

学籍番号〇〇〇〇〇〇

名前

指導教員 戸次大介 准教授

要旨

キーワード：

Abstract

Keywords:

目次

| | |
|--------------------------|----|
| 第 1 章 序論 | 1 |
| 第 2 章 関連研究 | 2 |
| 第 3 章 研究準備 | 3 |
| 3.1 本章にて記すべき内容 | 3 |
| 3.1.1 図の挿入方法 | 3 |
| 第 4 章 研究内容 | 5 |
| 4.1 table 環境 | 5 |
| 第 5 章 実験 | 7 |
| 5.1 実験環境 | 7 |
| 5.2 使用したデータ | 7 |
| 5.3 シミュレーション結果 | 7 |
| 5.4 考察 | 7 |
| 第 6 章 結論 | 8 |
| 付 録 A 実験でもちいたデータ | 11 |
| 付 録 B ふろく | 12 |
| B.1 section | 12 |
| B.2 2 | 12 |
| 付 録 C furoku | 13 |

図 目 次

| | |
|-----------------------------|---|
| 3.1 8月12日の円対ドルの推移 | 4 |
|-----------------------------|---|

表 目 次

| | |
|---------------------|---|
| 4.1 表の挿入例 | 5 |
|---------------------|---|

第1章 序論

この章では、どのような研究背景があり、そのためにどのような研究の動機が生じ、自分の研究の目的が何であるかを明確にする。

科学技術論文の場合は、句読点は「、」「。」ではなく、「,」「.」を使う。

卒論はしっかり書きましょう。就職する人は学生生活最後の一番大きなレポートとなります。いつも言っていることですが、社会に出たら「成績」を評価されるのではなく「業績」を評価されます。学生時代の学業の評価をされるときに一番最初に聞かれるのは「卒論では何をやったの?」という質問です。卒業論文をしっかりと書いて後で人に見せられる状態にしておくのは後々必ず役に立ちます。

研究の動機と目的を記した後に、各章の章立てを説明する。

以下に本論文の構成を示す。第2章では、関連研究について述べる。第3章では、第4章で自分が行った研究を遂行するために必要となった理論などを説明する。第4章では、自分が提案する手法の説明をし、第5章で、シミュレーションや実験などによる具体的な結果を示すと共に研究成果に対する考察を述べる。最後に、第6章で、結論を述べる。

第2章 関連研究

自分が目的とした研究課題の動向や理論・手法などについて関連する先行研究について説明する。

第3章 研究準備

章の表題は，自分の論文に合わせて変更してください．ここでは，自分が提案する手法がどのような他の理論や技術によって成り立っているのかを第4章で説明するための準備として，理論の説明などを行います．

3.1 本章にて記すべき内容

- 研究で使う理論や手法などについての説明

論文や報告書を書くときに大切なことは，その論文を読者が頭から読んでいったときに，最後までわからない言葉などがないように気をつけることです．そのために，専門用語などを使うときは必ず前もって説明をする必要があります．用語や手法（例えば，「オントロジー」，「tf・idf」など）は知らない人はまったくわからないことなので，その説明を明確に記す必要があります．

- 研究の背景について説明による第3章でなされる自分の研究の内容の説明への導入

自分がおこなう研究の分野において，現在までにどのような研究がなされてきたのかを説明し，自分の研究内容がそれらとどう異なり新規性があるのかを述べる．

3.1.1 図の挿入方法

以下に図を figure 環境をもちいて貼りつけた例をしめす．label は文章中にその図を参照するときのキーワードとして用いられる．figure 環境を使うことにより，図目次のところに自動的にその図とタイトルがリストアップされる．ひとつ注意することは，figure 環境を使うと L^AT_EX が勝手に図の配置をおこなってしまう．これは，L^AT_EX のなかで最適な場所を選んでおこなっているのだが，われわれにとって不都合な場合も

多々ある。その場合には、文章の長さや図の大きさなどを調整して、自分たちが図を挿入したい場所に図が入るように工夫するしかない。(この場合、図が次のページに飛んでしまっている。)



図 3.1: 8月12日の円対ドルの推移

また、figure環境をつかって、labelを設定したなら、あとで新たに図を挿入しても図の番号が自動的に変更される。本文中の参照のしかたは次の括弧内の図2.1のソースを参照のこと。(図3.1)

第4章 研究内容

自分がおこなった研究について説明をおこなう。この部分は必要ならば、章を増やしてより詳細に説明をおこなう。この章のタイトルとなっている「研究内容」は自分の研究内容をよく表すタイトルに変更すること。

4.1 table 環境

figure 環境と同じように表の位置および表の番号、タイトルをつけるときには table 環境を使います。

表を配置するおおよその位置は、`\begin{table}`の後に指定します。`\begin{table}[h]`では、その位置に入ります。(オプションは figure 環境と同じです。) `\caption` は、表番号と表タイトルを付けます。`\label` は、表番号を参照するためのラベル (名前) です。表番号は自動的に付きます。図を挿入する場合とのひとつだけの違いは、`\caption` は図の場合は、図の下に入れますが、表の場合は表の上に入れます。このことは一般的に文書を作成するときの慣例となっているので注意してください。

表 4.1 は、表の挿入例です。

表 4.1: 表の挿入例

| 役割 | 氏名 |
|--------|-------|
| 内閣総理大臣 | 小泉純一郎 |
| 総務大臣 | 麻生太郎 |
| 法務大臣 | 野沢太三 |
| 外務大臣 | 川口順子 |
| 財務大臣 | 谷垣禎一 |
| 文部科学大臣 | 河村建夫 |

注意！表や図を挿入し，参照機能を使った場合は必ずコンパイルを2回はしてください．参照機能は2回コンパイルをしないときちんと働いてくれません！

第5章 実験

章のタイトルは,「実験」,「シミュレーション」,「ケーススタディ」あるいは自分が実装したシステムの名前などになる.

大まかに以下の章などのことについて説明を行う.

5.1 実験環境

5.2 使用したデータ

5.3 シミュレーション結果

5.4 考察

研究により得られた結果から何が言えるのかを考察する. または, システムなどを作成した人は, ここで実際にシステムを動かしてなにが得られるのかについて詳細な説明を行う.

第6章 結論

自分が行った研究の概要を簡単に述べ、それがどのような意味があるのかについて述べる。将来的な課題などについて触れる。結論はおよそ2ページくらい書けばよいでしょう。

感想文にならないように研究成果の報告をする章だということを念頭において書くことに気をつけてください。

謝辞

～に感謝いたします。

関連図書

- [1] 参考文献は，本または論文のタイトル，著者名，出版社，ページ（論文の場合），発行年を記すこと．
- [2] 乙部巖己，江口庄英，pLaTeX2 ϵ for Windos, SOFT BANK, 1996.

付 録 A 実験でもちいたデータ

ここには，実験のデータなど，論文の本文中に載せられなかったが，読者にとって役に立つとおもわれるデータなどを付録として掲載する．

付 録B ふろく

B.1 section

B.2 2

付 録C furoku